

Interview

新型コロナ対策

国民性に配慮した措置を

三浦 瑠麗 氏に聞く



【Profile】三浦 瑠麗 (みうら・るり)

1980年神奈川県生まれ。国際政治学者。東京大学農学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科修了。東京大学政策ビジョン研究センター講師を経て、現在は山猫総合研究所代表。

三浦瑠麗氏は国際政治学者で、博士論文をもとにした『シベリアの戦争―デモクラシーが攻撃的になるとき』でデビューし、「朝まで生テレビ!」「ワイドナショー」など、各種メディアで国際政治の専門家として第一線で活躍する。今回は新型コロナウイルスについて、国際的な視野から日本への影響、日本の感染防止対策および経済対策、海外の対応、東京オリンピックの延期に関して「見解を伺ったほか、今後の日本の歯科医療への展望などを伺った。聞き手は山猫総合研究所代表。

―坪田有史会長 まず、新型コロナウイルス(以下、「新型コロナ」)による日本への影響について。

▼三浦瑠麗氏 国内では東京のリスクが非常に意識されていますが、日本人は政府の要請に従う人が多く、しかも衛生に関する意識が高いので、むしろ人々をパニックに陥らせない方向で注意すべきだと思います。新型コロナのアウトブレイク後に対処した国々は、いずれもロックダウン、外出禁止令や商工業・サービス業の停止など、激的な措置をとりました。日本が同様の措置をとった場合にどうなるか。国民性を前提にしたとしても、さすがに平静は保てないと思います。日本でも一時、トイレレットペーパーや生鮮食品などの買い占めがありました。人々が

一定水準以上の危機を抱いたときには、ある意味「合理的」な行動として、人々は買い占めを予測したうえで自分の家庭の物資は確保しようと考えます。ですから、ロックダウンのような過激な事態は避けたいと、一番の弱者がしわ寄せを受け、生命のリスクに晒される可能性があります。一方で、政治の側を見ると、日本では強い政権が存在しており、与野党協力が進みやすいという利点はありますが、民主国家の常として、大衆に対するイメー

ユリズムに呼応した議論が沸き起こって、その議論が二極化した結果として、多数の側が少数の側を抑え込んだり、抑圧したりすることです。

―小・中・高校等の一斉休校措置について。

▼三浦氏 一斉休校措置については、子どもが感染爆発のクラスターを形成しているという科学的な事実はありません。確かにインフルエンザでは小・中・高校などでの感染爆発は起こりうるでしょう。

決定時に見落とされていたのは、子を持つ親は医療従事者でもあり、そして経済を回している現役世代であること。さらに、一番重症化リスクのある高齢者に行動制限が課されていない段階で、小・中・高校等を休校するというメッセージの混乱がおきました。つまり、高齢者が出歩くのは問題ないが、小・中・高校生が出歩くのは問題であるかのような印象が広がり、その結果、屋外の活動をしている子どもに対して高齢者が罵倒するといったようなトラブル、あるいは高齢者がさしたる警告を受けないまま、遊戯施設、温浴、バーなどに出入りという問題が起きました。結果的には医療にも経済にもダメージを与え、世間の分断を加速した部分があると思います。

―消費税で還元という手段について。

▼三浦氏 消費税での対策は、どうやっても四カ月ばかりかかります。ですから、消費税は、消費を控える動きを加速します。消費税で

の対策はやめたほうがいい。

消費税は他の税よりも公平に把握しやすい税の体系です。逆進性を指摘する人はいませんが、それは所得税の累進性や相続税と組み合わせ

て調整すればよいものです。高齢者の人たちにも負担していただくことは重要です。ほかの手段で現金給付、控除などと組み合わせれば良いと思います。

消費税はグローバルな競争力を害しないフェアな税制で、輸出産業にとってもプラスです。重要なのは消費減税という「象徴」を取り

にいくことではなく、具体的にいくら、低所得者の手にお金が渡るかです。まず、考えなければいけないことは、三・五月の個人の資金繰りと企業の資金繰りでし

よう。税金の支払い義務の先延ばし、あるいは免除、政策金融を用いた低金利融資の大幅拡大、そして金融機関に対する返済猶予などの手当てをしてから現金給付

という順番です。いずれにせよ、現金給付は所得を代替するだけですので、実効性は低いことを念頭に置き、マーケットを安心させる対策として行うことが必要だと思っています。

それから、もう一つ現行の制度を生かすべきものは生活保護の仕組みです。これを機に審査を緩和して、財産をすぐに処分しなくても受給できるようにする。

ある意味、柔軟なタイムラグとして半年から一年間ほどの生活保護の後に復帰できるのであれば、財産の処分は免除しても良いといった柔軟な対応があっても良

いと思いますね。

―海外の対応はどう見えますか。

▼三浦氏 一番避けなければいけないパニックが起きていると思います。ポリ

ス・ジョンソン首相の当初の政策は、イギリス国民に公衆衛生の概念を植え付け、高リスクの高齢者を自宅で保護し、みんなで気をつけるようにしながら経済を回し

つつけるということだったと思います。日本型の「自粛」をすることによって、感染のスピードを遅らせ

イギリスのすでに崩壊して久しいNHS制度に頼るだけならば、個人は何もできないという無力感に襲われるのでしょ。各国で起

ていることは、「私たちは何もできない、ただ耐え忍ぶしかないのだ」という現実を拒もつとする人たちが、政府にさまざまな要求を突き付けるとい状況です。

医療専門家の方々が、段階論として封鎖を位置付けるのは、確立された知見でしょうから、私が言うのはおこがましいですが、しかし、社会や政治が封鎖に対してどう反応するのかという洞察を医療専門家を持つているのか疑問です。封鎖したらスーパーマーケットから食料がなくなるとい

うのは、医学的洞察ではありませんから。東京オリンピックの延期について。

は、スポーツでの協力はあっても、国際協力が非常に低下していることです。日本は三月の時点でオリンピック延期を決めたのに、それでも日本に対して怒りをぶつける外国の人々がいたのは、嘆かわしいことです。

本来、パンデミックというのは国際協力が高まる領域だとされてきました。世界にとって共通の脅威であ

って、某国が核兵器を向けているわけではないからです。ただ、最近明らかにな

ってきたのは、宇宙人が侵略してきたても恐らく地球は

一丸にはなれないということ。SFの前提は間違っているということですね。

―日本の社会保障費について。

▼三浦氏 日本の少子高齢化のスピードは、先進国の中でも特異なレベルにあります。社会保障費の伸びは、当初考えられていたよりも抑制されており、それは良かったと思うのですが、高齢者には、もう少し平等な負担をお願いすることは避けられないと思います。なぜ、フリーランスで働く三十代が多く支払い、お金持ちの高齢者が払わなくて良いのかという点が問題となるからです。世代間の公平も大事なのですが、世界でも際だった健康保険制度を生かすためには、少子高齢化による財政難を豊かな高齢者が埋めないといけない。若者が高齢者を支えるという前提の発想を転換することも必要だと思います。

アメリカでは、最低限度の生活を営んでいる人々と高齢者に社会保障が与えられるわけですが、低賃金の移民を大量に雇った結果として、貧しいままに老いる移民の労働者が増え、社会

医療は健康を維持するために頑張してほしい

―歯科医師に対するイメージについて。

▼三浦氏 私は小さいころから歯医者さんに通っていたので、虫歯でなくても診てもらったことが常識でした。私は家庭が厳しくて、歯みがきに時間をかけ、甘いものはあまり食べなかった

のです。遠足に行くときのおやつも醤油せんべいだった。その結果として、子どもを産むまで一度も虫歯にならなかった。

ただ、出産後、多くのお母さんたちが自分たちの身を構わなくなったように、歯みがきの頻度が減り、カルシウムがなくなるなど、そういったことが重なり、とうとう虫歯になってしまいました。そして、子どもがちょっと大きくなったので、もう一回通い始めました。

私の子どもは今、歯医者

保障費を貰う側に転落する。企業は潤いますが、国家や州の財政は厳しくなる。ですから、日本はこれを他山の石とし、外国人労働者を数多く受け入れる方向に転換しつつも、企業にとってプラスだけでなく、政府の税収を確保する視点が必要と考えています。

皆さんに通っています。一本か二本、偶然抜けた歯を除いては、全部乳歯は抜いてもらっています。歯肉に注射するの泣かずに受けています。その歯医者さんの女性に憧れたのでしょ。か娘にとってはロールモデルのような存在に感じたらしく、大きいお姉さんの前で泣き叫ぶのは恥ずかしいからという理由で、一粒も涙を見せずにがんばっています。

―歯科に期待すること。

▼三浦氏 これからの時代、やはり、医療費を総額で抑制することは必要でしょう。そのため、健康政策への大胆なシフトが望ましいです。私が出産後まで虫歯にならないうで済んだのも、日々の維持管理を行っていたからです。医療は悪くなったものを治すだけでなく、健康を維持するために頑張っ

てほしい。全体としてみれば、医療健康分野に関するポテンシャルはビジネス上も非常に豊かなものですよ。健康管理の目的を果たして、全体的な医療にかかる国のコストを抑制したり、健康保険組合の支出を節約すべきだと思います。人権や労働者の権利の概念が向上すると、今よりもだいたい違う世界が見えてくるはず。私が歯科医療界の方々にお願いしたいことは、歯の健康は先進国の水準、先進度を表すもので、やはりユニバーサルにみんなが健康を維持することを目指していただきたいということ。口腔の健康は、結果として身体全体の健康を維持することにもなります。

―大切にされている言葉を。

▼三浦氏 長いのですけれども、いつも色紙に書く宮沢賢治の言葉があります。彼が教師としての心構えを書きつけた言葉で、「かなしみはちからに、欲りはいつくしみに、いかりは智慧にみちびかるべし」。

腹が立つたときにも効くし、人に対する思いやりを持つことにも効く、精神の安定にも効く万能な言葉だと思っています。

私は「どんぐりと山猫」「注文の多い料理店」など、宮沢賢治の作品が好きで、この言葉も賢治についての本を読んで知りました。子育ての困難に際して、あるいは炎上した時など、いつもこの言葉を思い出すように心がけています。

―本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。



歯科についてご自身の体験など笑顔を交えてお話をいただきました